

環境保全行動 報告提出書  
自動車使用管理実施

2023 年 4 月 20 日

(宛先) 札幌市長

提出者 住所	〒060-0003 札幌市中央区北3条西1丁目2番地9
氏名	株式会社 札幌ホテルマネジメント
(代表者名)	ANAクラウンプラザホテル札幌 総支配人 小柳裕司
	(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

札幌市生活環境の確保に関する条例 第13条第4項 第23条第3項 の規定により、環境保全行動自動車使用管理実施報告書を提出します。

報告期間	2022 年 4 月 1 日 ~ 2023 年 3 月 31 日	
事業の規模	従業員数	158 人
	使用床面積	36760 m <sup>2</sup>
	事業所数	1 事業所
	自動車使用台数	2022年最初5台 2022年2台に変更 台
温室効果ガス排出量 (二酸化炭素換算排出量)	エネルギー起源CO <sub>2</sub>	メタン
	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	PFC
	4090 t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>
		N <sub>2</sub> O
		HFC
		SF <sub>6</sub>
		NF <sub>3</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
報告書の担当部署	担当部署名 担当者氏名 電話/FAX 電子メールアドレス	
計画書提出根拠	条例第13条(環境保全行動計画)	<input checked="" type="checkbox"/> 第1項 <input type="checkbox"/> 第3項
	条例第23条(自動車使用管理計画)	<input type="checkbox"/> 第1項 <input type="checkbox"/> 第2項
計画期間	2022 年 4 月 1 日 ~ 2025 年 3 月 31 日	
環境保全行動自動車使用管理実施 報告書	別添のとおり	
備考		

- 注 1 従業員数、使用床面積及び自動車使用台数は、報告に係る年度の3月31日現在で記入してください。
- 2 事業所数は、報告年度に係る年度の3月31日現在の札幌市内事業所数を記入してください。
- 3 燃料・熱・電気の合計量は、報告に係る年度に使用した量を原油換算して記入してください。
- 4 原油換算の方法は、エネルギーの使用の合理化等に関する法律施行規則第4条に規定する方法により行ってください。
- 5 温室効果ガス排出量は、地球温暖化対策の推進に関する法律第2条第5項で規定する方法により、二酸化炭素排出量に換算したものを記入してください。



別添

環境保全行動報告書  
自動車使用管理実施報告書

1 行動目標の達成状況

【計画期間】

2022年 4月 1日～ 2025年 3月 31日

【報告期間】

2022年 4月 1日～ 2023年 3月 31日

行動目標	基準数値	目標削減率	2022年度結果			2023年度結果			2024年度結果		
			実績数値	削減率	結果	実績数値	削減率	結果	実績数値	削減率	結果
二酸化炭素排出量の削減	3510	1	4090	▲ 17	×						
	Kg	%	Kg	%							
地下水採取量の削減	84986	1	131844	▲ 55	×						
	m <sup>3</sup>	%	m <sup>3</sup>	%							
廃棄物の排出量抑制	97908	1	216643	▲ 121	×						
	Kg	%	Kg	%							
		%		%							
		%		%							
		%		%							

注 1 実績数値が基準数値よりも増加した場合は、削減率の数値の前に▲を記入してください。

2 結果の欄には、以下のいずれかを記入してください。

○：目標削減率を達成

△：実績数値が基準数値よりも削減されたが、目標削減率は未達成

×：実績数値が基準数値よりも増加

2 行動目標達成・未達成の理由

行動目標	結果	理由
二酸化炭素排出量の削減	×	高温水・電気共に、前年使用量より増加しています。コロナウィルスの為、2021年度の宿泊客数(前年比291%)、宴会料飲人数(前年比300%)、新テナント増加により今年度は各使用量が増加しています。館内の蛍光灯LED工事や空調機、各ポンプ等の使用量を出来るだけ少なくしましたが、増加分を賅えませんでした。次年度は宿泊数などは落ち着くと思われるので、こまめな操作を実施し削減に努めます。
地下水採取量の削減	×	前年使用量より増加しています。コロナウィルスの為、2021年度の宿泊客数(前年比291%)、宴会料飲人数(前年比300%)、新テナント増加により今年度は飲料水汲上げ量と空調冷房用冷水、冷蔵庫冷却水の汲上げ量が増加しています。空調冷房用冷水を早めに停止し削減を目指しましたが飲料水汲上げ量の増加分を賅う事は出来ませんでした。次年度は飲料水汲上げ量を賅いながらお客様の苦情がない様に機械用水系統を削減したいと思えます。
廃棄物の排出量抑制	×	前年使用量より増加しています。コロナウィルスの為、2021年度の宿泊客数(前年比291%)、宴会料飲人数(前年比300%)、新テナント増加により各廃棄物排出量が増加しています。次年度は更に分別を推進し削減に努めたいと思えます。